

2024年2月14日

各位

会社名	株式会社ダイキアキス	
代表者名	代表取締役社長 CIO・CGO	大亀 裕貴
	(コード番号：4245 東証スタンダード市場)	
問合せ先	取締役 常務執行役員	本田 和博
	(TEL：089-927-2222)	

スリランカ環境省副局長との意見交換の実施について

株式会社ダイキアキス（本社：愛媛県松山市、代表取締役社長：大亀 裕貴）の松山本社にスリランカ環境省の副局長が来社され、弊社製品についての紹介ならびにスリランカにおける浄化槽の法整備についての意見交換会をおこないましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 訪問概要

日時：2024年2月5日（月）～6日（火）2日間
訪問者：スリランカ環境省 環境保護局 副局長 R. M. S. K. Ratnayake 氏
場所：株式会社ダイキアキス 松山本社

2. スリランカの水環境の現状について

スリランカの下水道普及率は、国全体の約5%に留まっている状況であり、未処理の生活排水が河川へ放流され、スリランカの多くの地域で環境基準を大きく超える水質の悪化が発生しています。その為、人々の安心・安全な生活環境を確保するためには、早急な水インフラの構築や水環境に関わる法整備が求められています。

3. 当社グループとスリランカの関係

スリランカ全土へ下水道設備を導入するコストは莫大かつ、工事を伴う長期的な対応を避けることはできません。そこで当社グループの有する浄化槽技術と製品を提案することで、早急かつ適切な排水処理をオンサイトで対応する為、2022年10月にスリランカ現地に戸建て用の小型浄化槽の組立工場を設立し、製造を開始いたしました。

そのような中、昨年11月には、スリランカ最大の民間主催のビジネスアワードで4つの賞「LANKA BUSINESS AWARD」を受賞した事で、当社グループの取り組みは、製品である浄化槽と併せ、水環境の保全に有効であると認められ、認知度はますます高まっております。

4. 意見交換会の内容について

このようなことから、スリランカ政府関係者の排水処理に関する意識も更に高まっているものの、法整備や運用については今後の課題となっており、2024年2月5日～6日の2日間にかけてスリランカ環境省 環境保護局 副局長である R. M. S. K. Ratnayake 氏が当社に来社され、今後の課題解決に向けての意見交換をおこないました。

初日は、スリランカの96%で利用されている機能不全のセプティックタンク（腐敗槽）について、規制を設ける為に日本の浄化槽法・製品認証制度導入について議論を交わしました。翌日は、当社松山工場（愛媛県東温市）や当社子会社である株式会社環境分析センター（愛媛県松山市）、排水処理場（愛媛県松山市）に併設している実験場を見学され、当社製品による排水処理のより詳細な仕組みについて、また、浄化槽を導入することによるメリットについて説明をおこないました。

5. スリランカにおける今後の展開について

当社グループは、「環境を守る。未来を変える。」というミッション達成に向けて、「世界の環境課題を技術とアイデアで解決し、世界の人々の生活を支える」ことを私たちの存在意義（パーパス）と定めております。海外展開は当社グループの最重要課題として取り組んでおり、今後もスリランカの人々の生活を支えるべく、製品導入からメンテナンスを通じて、浄化槽技術の価値を伝えると共に、現地の法整備改革にも寄与してまいります。



スリランカ環境省 環境保護局 副局長
R.M.S.K.Ratnayake 氏（写真左から2人目）



松山工場を見学中の R.M.S.K.Ratnayake 氏

以 上

■本件に関するお問い合わせ
株式会社ダイキアクシス 経営企画部
Email : ir@daiki-axis.com